

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「漢字の音と訓」 教材名「漢字の音と訓」

2 単元の目標

第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる。この教材では、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例「山」と「火山」の読みを比べ、教師が辞書で確認した音訓を使う。かるたを作る場合は教科書の問題を写さず、既習語から自分の短い読み札を考える。想定する難しさは、単独で意味が分かれば必ず訓と決める、例外を無理に分類する。評価では、第3学年までに配当されている漢字を読んでいるかを、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 同じ漢字の異なる読みを語で比べる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○同じ漢字の異なる読みを語で比べる。辞書で音訓を確かめる。自作の文や読み札を書く。意味と読みの対応を見直す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。(〔知識及び技能〕(1)エ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」 【めあて】同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ漢字を使っているけど読み方が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」 同じ漢字の異なる読みを語で比べる。辞書で音訓を確認める。自作の文や読み札を書く。意味と読みの対応を見直す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ漢字を使っているけど読み方が違う。 ・漢字だけでなく語を読むと意味が分かる。 ・決められないので辞書で確かめた。	独自例「山」と「火山」の読みを比べ、教師が辞書で確認した音訓を使う。かるとを作る場合は教科書の問題を写さず、既習語から自分の短い読み札を考える。 想定する難しさ：単独で意味が分かれば必ず訓と決める、例外を無理に分類する。 評価では、第3学年までに配当されている漢字を読んでいるかを、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・決められないので辞書で確かめた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」。中央は、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

